

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会  
第 11 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2009 年 9 月 3 日 (火) 13:30~15:30
2. 場 所 原子力安全基盤機構 本館 9 階 9 F 会議室
3. 出席者 (敬称略)  
(出席委員) 鈴木副主査, 文能 (藤田幹事代理), 新井 (黛代理), 鴨志田 (楠代理), 矢野 (柴田代理), 佐野 (清水代理), 下家, 田中 (正), 飯山 (田村代理), 菅野 (橋倉代理), 萬年, 西山 (山下代理), 松本 (利沢代理), 野崎 (松浦代理), 三山 (15 名)  
(欠席委員) 大木, 大崎, 橘高, 持丸, 渡邊, 坂下 (6 名)  
(常時参加者) 中川  
(事務局) 岡村
4. 配付資料  
P14SC-11-1 第 10 回 PLM 分科会議事録  
P14SC-11-2 人事について (案)  
P14SC-11-3 原子力安全・保安院技術評価結果の対応 (案)  
P14SC-11-4-1 経年劣化メカニズムまとめ表の改定 (案)  
P14SC-11-4-2 経年劣化メカニズムまとめ表改定案  
P14SC-11-5 システム安全専門部会における標準策定スケジュール (案)  
P14SC-11-6 PLM 分科会活動スケジュール (案)  
  
P14SC-11-参考 1 第 24 回原子炉安全小委員会資料 24-4 高経年化対策実施基準:2008 に関する技術評価について(案)  
P14SC-11-参考 2 SC-35-6 標準委員会における追補の運用について (案)  
P14SC-11-参考 3 P14SC-8-6-1 経年劣化メカニズムまとめ表の規格化 (案)  
P14SC-11-参考 4 P14SC-10-5-1 経年劣化メカニズムまとめ表の確認結果 (案)
5. 議事  
会議に先立ち, 事務局より委員 4 名が既に退任しており, 現在の委員数 21 名に対して出席委員は 15 名であり定足数を満足している旨報告があった。  
(1) 前回議事録確認  
事務局より, 第 10 回 PLM 分科会議事録 (P14SC-11-1) については, 既に承認済みであることが紹介された。

## (2) 人事 (P14SC-11-2)

### ①委員の退任

事務局より、関村、田中（秀）、前田、岡本、藤田、黛、柴田、清水、橋倉、持丸、山下各委員の退任が報告された。

### ②新委員の選任

事務局より、新委員として以下の 7 名が推薦されている旨紹介があり、審議の結果全員が選任された。

文能 一成 ((株) 原子力エンジニアリング)

新井 拓 ((財) 電力中央研究所)

矢野 眞二 ((社) 日本原子力技術協会)

佐野 忠之 (中部電力 (株))

皆川 武史 ((独) 原子力安全基盤機構)

米山 弘光 (経済産業省 原子力安全・保安院)

西山 俊明 (東京電力 (株))

### ③常時参加登録の解除

事務局より、田口氏、落合氏の常時参加登録の解除が報告された。

### ④役員を選出

関村主査退任のため、新たな主査を委員の互選により選出した。投票の結果、15 票のうち鈴木委員 13 票、白票 2 票により、鈴木委員が主査に選任された。鈴木新主査の意向により、副主査、幹事は次回決めることとし、暫定幹事として文能委員が指名された。また、分科会代表者についても、文能委員が指名された。

## (3) 原子力安全・保安院技術評価結果等

P14SC-11-3 及び参考資料 1 に基づいて、文能幹事より原子力安全・保安院技術評価結果及び対応方針について説明がされた。主なコメント等は以下のとおり。

- ・技術評価書の公衆審査が遅れていることについて、原子力安全・保安院に確認したところ、手続き上の問題で遅れているが、1 週間後を目処に公衆審査に入る予定とのこと。
- ・健全性評価の定義のさらなる明確化について、「原子力発電所の供用末期までの経年劣化事象の発生又は進展を、予測して実施する」と記載する改定案になっているが、「原子力発電所の供用末期まで」の記載は、「評価対象期間」と記載した方がよい。  
→文案を修正する。
- ・長期保全計画と長期保守管理方針の使い分けの明確化について、長期保全計画をベースに長期保守管理方針を作成する過程が分かるように記載した方がよい。

→機器ごとにまとめた長期保全計画を、事象ごとに編集して長期保守管理方針を作成し、保安規定に記載することなどを記載するように文案を見直す。また、長期保守管理方針の記載をなお書きとするのではなく、「長期保全計画に基づき…」などの書き出しとする。

- ・高経年化対策検討の変更について、長期保守管理方針も変更することを記載してはどうか。また、運転期間や定格熱出力の変更は、評価の前提条件であり、最新知見ではないので、「最新知見」の直後の括弧書きは、やめた方がよい。
- 括弧書きをやめて、運転経験及び最新知見と並列表記とするなどの修正を行う。

#### (4) 経年劣化メカニズムまとめ表の改定

P14SC-11-4-1 及び 11-4-2 に基づいて、文能幹事より、経年劣化メカニズムまとめ表の改定作業について説明が行われた。主なコメント等は以下のとおり。

- ・委員の持ち帰り作業用の経年劣化メカニズムまとめ表は、後日メールで配付し、作業の期限は、9/30（水）とする。
  - ・2008年版の正誤表と追補版での変更点一覧表は、区別した方がよい。
  - ・2008年版の時に実施した JNES 標準審査管理表とのクロスチェックは、今回の追加プラント分の標準審査管理表がないので、実施できない。したがって、何らかの方法で、PLM 分科会がしっかり内容をチェックしていることを示す必要がある。また、変更箇所が多いので、変更内容を分析して説明する必要がある。
- 作業プロセス及び作業結果をしっかり審議していることが分かるように、審議方法を修正する。
- ・追補による改定については、国の技術評価を新たに行うかどうかに係わらず、国の委員会で説明が必要である。

#### (5) システム安全専門部会等への状況報告（案）

P14SC-11-5 に基づいて、事務局よりシステム安全専門部会日程及び追補の審議スケジュールについて説明が行われた。

審議の結果、追補の審査期間短縮のため、10月末～11月初めに臨時のシステム安全専門部会開催を提案することとなった。

#### (6) PLM分科会活動スケジュール（案）

P14SC-11-6に基づいて、PLM分科会活動スケジュール（案）が文能幹事より紹介され、了承された。また、次回の追補版の審議の時、高経年化技術評価報告書以外の保安規程の保全の有効性評価から得られた知見の取込みについて検討することが、提案され、了承された。

6. 今後のスケジュール等

次回分科会は、10月15日（木）13:30～開催することとした。

以 上